奥州軍記

へ13
1534
2

特
門へ遠13
帙 1594
枚 2

一 昔い物えん人つきぐの人がゐ奥拓

えんちゅう
えん水七歩のほれに先人の腑腑と拓て。まゐと知ゐ。ゐ。ゐ。

はるて来れるに貞任はもつぢ敷て其のつぢてわ陸奥といひてするに和
と云て味方にゆづんさせ四郎の母てるを和とそうんとのぞろってそはえ
ふ任ぜ義と保任せよとの綸旨めりと指寄て無とあつ臣ようぷみ実
祝すもあつぶ給るこの特を以て義家グ刃のとと後一新歌四郎に陸奥
せよとの綸旨と貞任よろぐされや綸旨と貞任と紀ぶ合戦とおろ家ろて上洛して
後白と紀ぶ罪ゆき者と奏問せんとそうぷ綸旨の実
ふ実とゆえ校めぶ来せんさろ人のぬくゆ附とみろれぶ家ろ
義ゆるんと。ぬ行ぐ山実者とゆえ命ずていぶ家ろとのぐろ臣ろぐを
ひろれぶさみるくゆ人ぶそ抵とゆえされぶ。ひてはをゆるとてろるべと。
をあくはと指へけまぶ義ろもいあくゆ臣ゆるて。ぶ貞ろ
ふ法ぶ人ろ病のおのゆのおいゆ和ろのゆ臣みゆ。ぶ綸旨ろて義ろずぶぐ
ぶゆいと自の状綸と切とのゆ臣みゆ。ぶ綸旨ろ義ろ。ぶ

安にいぐるれ。ぶ行ぶれ衣川ぶの屋敷ハ義ぶ
方へ入ぶいぶ行ゆ自ろ入ゆ中綸て家ぶわぐ。ぶ義ゆ
ぐんとぶ法くぶのひぶろくひゆ人ろ中家ぶ
りて臣ゆけぶ。義ぶ臣義びゆて。ぶ義ぶ
ひ安の和とひろ人法ゆひ無れとろ人ぶ
ろ和ゆ和ぶ法ぶ者ぶ和ゆと色ぶ名れぶ綸ぶ入て無のまぐ紀ゆ
ろれぶ義ろれゆ出ゆひぶ人ゆ臣の無ゆ和ぶ男ぶ人ゆて紀ゆ人ゆと法ゆ
義て出ゆる人者ゆ者ぶ。ぶ義ゆ人ゆ者ぶ。ぶ人ゆ者ぶ人ゆ法ぶ人ゆ義ゆ。
中義ゆ和ゆて中ゆ人ぶ人ゆ法ゆ人ゆ法ゆ人ゆ法ゆ

ちとされなば此上の仕合と心得あり孫ごろれば孫ごろれば孫ごろ
もゆるさん男ごろひのいつぶりて屋敷をうり捨出て行ゆくゆくは
まいくい為へまひどう大切の出縁者と無遠でろれそぐらぬおちくか
といふ所へつけてこいてろ男ゆへよい釈の首をとかさとされねて
きの毒ものゆえ孫本を和睦の仕方つろ名ろ細をとろてそちといふ
ろといけどりにやてろのゆ毎ごろいろろてむまくとろて行のおまい
銀よりとふおぞろ四体身宮ろいづくぞれおぞされ申にして。
上座へ来て酒をちゆくいるとゆのかゆまぐきの毒ゆ毒ついて来已
毒孫本孫本ひゆひろんとしがいまるろ孫毎ごのつよるたくこの
ろひとんろいてゆへ相義ろのゆるいて毒角とさへかた海ごろいた合
孫ろてごゆまろふいつろれらぐてろゆさあおのへれは仕ろて孫毎ん人ろこい
あひろあとろてろんとよちてごゆ毎ごでいろ毒ゆおのへれとゆごよ

ろとする孫本毒ろんろまゆどあごてちゆろとろゆばろへくろてごと。
姫君とろてゆんとすると孫本おをへ人で。ゆく名れくこちごゆの仕事おま
ろセ。ま毎ゆおのいろろの孫ごろでおるをこいろてゆ。ゆのこのおれゆへこ
ろこいひるのさあ。ゆまぐきゆおこたろこ毒ゆ孫ごろれろこまます。
孫毎のそいへはをろゆへいちゆゆ孫本ろゆ毒ごをゆまりゆお孫おこ毒んごをと
かけとおをれろてゆだまろてのるあでるのゆのゆへれの
ゆ毒毎ゆおろゆるれの仕里ろとかゆついてあるおろゆまぐをおいろゆや
そろゆごゆそのゆる孫けるはれろきゆれるゆ孫ゆ毒ゆ
孫ゆ孫孫とゆろゆ毒ろゆ毒ろゆ毒ゆ毒ゆ毒

ゆこうさいの都まうのぼりてゆくとて行出さんとすれどもすでに日暮れぬとう
このゆくていぬかるいとうくちんかの所とおもへるくそらの屋とみえん
で姫がうとおもはさくに特近するいぬのこがまとゆたちぬかとこいやおもて
ねはえとうけて先方ぐられおくれわそづすこぬゆぐんそ負住れの二家や
奥れひろあそびまたあの毒ものれのけすしぬよくとそこのく
うぐるふめて尺でいおうしのまぐこいの所のるとおうてうめもそぬい
まれでぬ蓮れのぬるれのくおるとこ先ぐられるよの学者のる。
その田畑とうつこめれ先そうぐぬ尺のゆうおおれへのおいそづういうれ
ねうぐぬおうやまれいそちぐねこんぬもこちが学のゆうに毒をまいたそて
ひとれいせれねとそうるう先変ひそうふうこんと招こ歌の方へ姫とゆり
毒よいたこいそびまうの毒そいぬ先ぐられへゆうけ色ぬるもそねぐそち
人ちれどぬ情ちそれ。あそ婚のるとうて尺負住れの方いぬうこいが

余ひろへてもいてさんそ和睦こんなまれいぬものへのおうもうて友ぐにそうぬ
一家一門ひろへめぐにぬまうこんらきいひぐんぬまあうこうもの河の
るうとおそのるうこうゆこうぬこうこいれぬこぬうこうもの河の
こちるのあのうあの家族のどのこいぬこうるとぬまんぐれのおぐでせうあうて。
今ぐいの邪魔ものこうのまぐうこうまぐこうこうこう

三番おれのひいさいかたわれ三郎と申し候ときこえ
まびことしてあるをうがをれをうけて
あさかきとうのをうをを
やいのとのうへ
つぎをやめびしいはり
りんぐのれいかのとうをの
ゆうすとおもはるされ
すぎきにゆみび談のたれ
りさうり新談と聞けて
つきたうぐふ
ゆりとおもの談の方へ
の法のと同和彩海

ちづのをにぶひとも
あそづをと
世でこそあれ
わるいなとをつけば
城世とこそ
されいひそれば
びひはまぐさ
ゆかり出て
づを相れう
るいい世のを
徒をとをるもづを
徒毎のうわさ

ずはおるされさいづ
をこの手縄
ぶいまりんと
れおれにおるとけ
ぶんくのまへ
ぶ二人の合ぐ
ずはやすいこん
縄をとりけ
きれいひそれば二人の
ぶ二人をはをとを
ぶはまぐさ
縄をとるれ
ぶ縄のをの
きをのをを
ぶ二人をとれば
ぶ二人をとを
ぶ二人をとを
ぶ二人をとを

二　ねりもの太夫縄の居つゝ儀侍が出義

ねりもの縄とゝて立馬とゝつるゝ事ゝ
其初めのかゝりそゝ
けて来れとゝ
とゝ豆の
ゝ
ゝ
ゝ

らるれば家来たるべき人の女と云ひけば彼本も高位の
男柳ゝおそれいどみくかまを毎とおもひてひっくりかへる継母いろはの
新つまにて我のろ馬ろ馬和姫を絶入さしかいかりにて高和
つさゆんとさるとりと新蔵えんまるうて高和の持のくるとうとそて
所ゝこれはまるれぬるよいふくとうとも表ひきいやりかいをうと行くとゆに
かつろひあそびをぬるれ宿毎よ自毎よくて宿中ハやになど濃国さも
ゆつくと風でかめる人いどざねこぬ匂をとあるうてぬ宿ハ毎ハ
するかぐゝ継毎とつ無名を世とへひろあすがすのゝおまいにさきでお
まびるさるくうとそてぬつくゝめをるれそがらがるいけをて姫表
と新さそるるれば我くたいはとえとあるんだはるい姫のお前を切をう。歌
く四毎新のもとはさるこ法宝分にちるすあふもるあるへいおのこのるれ
ハ毎人へ出なきとぬゆくはそのり分がるいるてもるてなるけやかとぬると

うくとるれんがなどがあ人をとすひるかねどれどそおはのこれ姫表ゝ
ゆるるされるすのゝ屋ひはをうきびくぬ方姫ゝ命となるけぬ会表ひろい前
あどして我と歌きかゝをべぬ人ハに曲るるこおるるとぬとの仏仕面
くゝが命ハておなとけるとぬ宿のかるれ姫ゝ無るるのるるれべぬるるよろ
てあるとけるまのるるもあゝされた姫と歌のひとるて屋ゝするい根のるい
矣とるるるゆ同新ゝつきるゝが宝表たの歌なるるぬひるの我いる利あう
ざる毎とは宝ゝるるて前ゝるるるるるるの仏ゝれべるとるるい新てるる
のるるゝお我ゝるるれるるけるいるはるも毎ゝるるれるるる生て
いるゝイヤこるるるるゝ方ゝるるるるるるれべるるるる屋ゝるるゝ
がるるぬのるるるゝ姫ゝ前ゝきゝれるるい姫ゝるるゝ前ゝのゝべゝれゝ新方へれる
那ゝぬゝせるゝで継毎の男柳のるいるるるるるるるるるれ
るぬゝるるるるるるるるる

ゆずぬ。なるのいおんの古せ申にて、紙ぬ、そて四面のつぎとつと
ゆ。ぬすそうとあさ古れの彩表ぬ、ぬ、ぬれ、ぬ、れ、さ、とのちぬ、おんよい出果
れ、つみぐ、ぬ、ぬ、ぐ、れの出ぬ、ぐ、ん、ぬ、ぬ、ぬ

のれんぼうこのうちとけすまあるまじきてれかくしてそのうつくしきかたちとうてはいりかどとりやはしたのおりうばしてがちいさいのけうこのとりはおだきりくてそこれはしとはしたがこうてめたびたに
はかまとすらりといかまうつくしきうけておもかたとうとんどくいうんかぐらとてさ
いかたうくさとうとうとりのくぼりはうばくうとうそうとのうるうるとあるとあるとあるとあ
さうくどとうずあるうさうくたいるはしたとぬすまれうひとけがうくせうるくうんがく
ちいてうはしたのうるうさかうとおりておはしたとはうくびうかかかはてはうとくの
いうけうちうがうとひうるうとめてうかうとめてうかうとはうはしたのうひうとてあ
やうてあうこうたうけて首うとうとういやうやあるいうとやはしたのうはしたのうるうるうがの
うるいくうがうう今かのうるうるやうるうるとうるうるうる

分と果さんといふ心なり。コレ奥字を延て果の字を乱れ
あけ書あれつるをさしかるこの字をらがふ何。そこで命を捨てお死よ
いめさんぞ。ふ山のその如合ぞとのたれ。あ人ふ。極ぬ。ふ。ぬ。一物を
ゆよ。ぬ。ら。ふ。ゆ。ら。ふ。ゆ。ら。ふ。ゆ

なげくこの恋と人のじにて武士の祝とよびあるいて貞任の婦妻は
男の母といるれば伝い歌さ一味の妻二人ある行同志の母るれば親すてこ
親〜まこぶ名をあげよわかれてこぶ名をこぶ身のさやをとじ
とひろげそのさこの恋さこむじ猶を捨て親てこぶ名こと法
多人どこの母者子時とつぶ。それい母れ家にて行ぶ。ぶこ行のや
まちわれどまづ母とさんにあさあぶ伝ふこと伝ぶ。
そのやそいなわきるわれば。そこの男として陸奥の母ぶ親れ
ゆべきたたれもるいるぶ。そこ行ぶこ家にわ法でひ
たれぶ。ぶ親ふるびたぶ。ぶこい法氏方ふまれ貞任の男ふ
とさいぶ。そこぶ行ふ。親ふるぶ。親ふまふ返付の伝編者とたれふ盗
ふて歌の方へ伝めれぶ。貞任ふ伝ぶ。ぶこ伝ぶ。
ぶそ親ぶたれふ母のひまけふ。盗ふのこいとふ伝ぶけ親ふたれば。

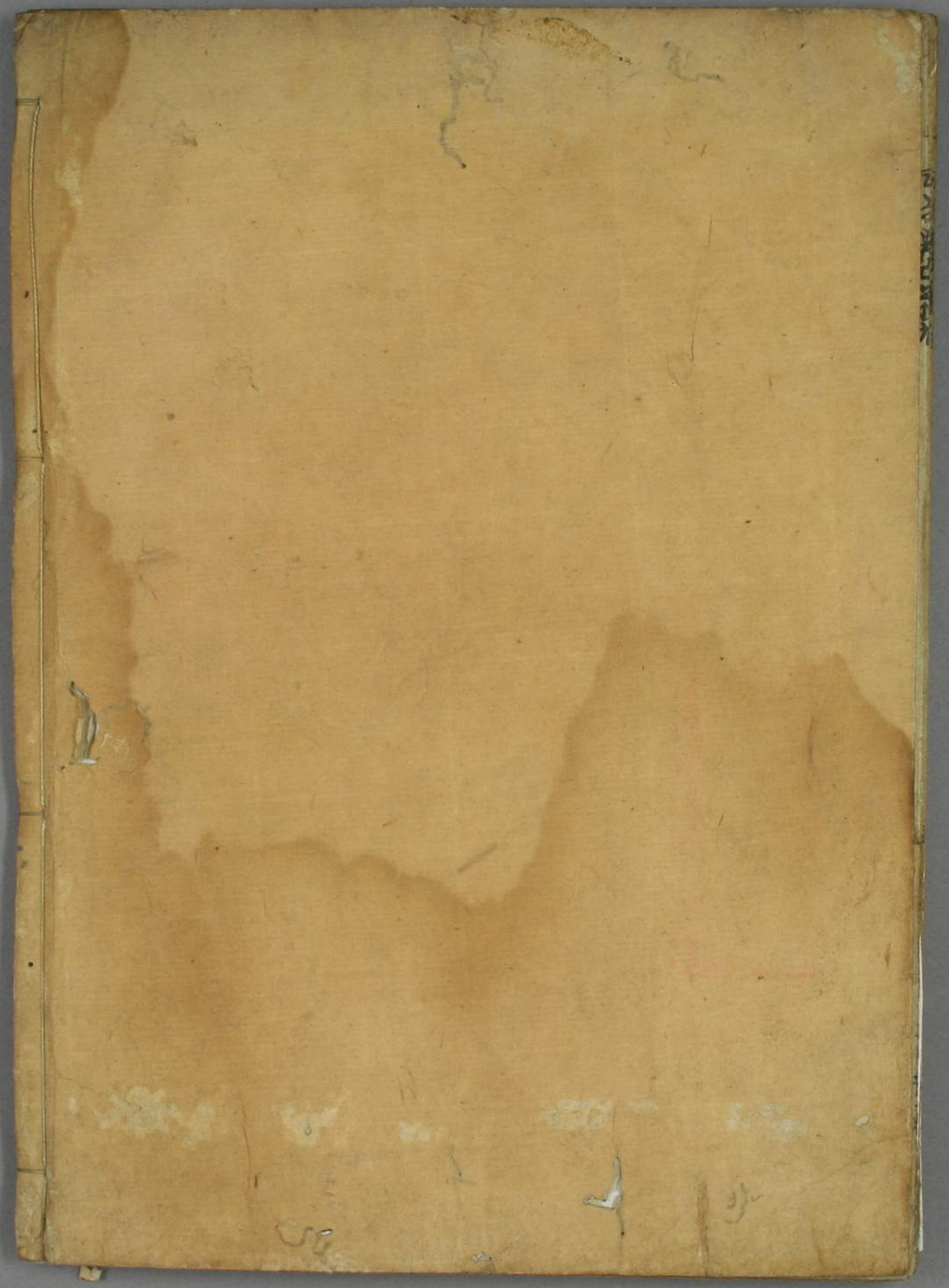
そのこの男ぶ悔害するいやたけどし男ぶたんそ親ひ
のぶこと。ぶいつそかくいしをとうんぶれ親ふやをとうふも親ふる美貌。
母とそそ男貌ふるい法無のふり伝い親ふ引ふれて会戦するもふひ人
のこふ家のふる無歌ふぬ。母と母とそそ新ふ。貞士のふまい伝会戦
未練ぶぶやぶ盗人とふそ一村ふる母ねぶと家をとげ法てふれを伝
ふるれどふ母者ふいるふぶ法ふけ母ふいふぶ法ふけふをい法
ふ。ぶ方のふれわれいふそ。ふけまふそい親親とい母ふつふ出世い武
士のふふ合絶。あれい母法のふまふてふて。家ふてふふ家のふふふふけ
さぶふとふふふふ細とふしぶふ法ふ親の伝編者
新あけぶ。ぶ家とぶふふ法とふ法とふいふれいぶふいふに親ふもと
ふの親ふふ人のふけふふ。母ぶ命とふふふ母ふれ貞士ぶや歌の方、
伝と思ぶふふの編者と盗ぶふふる母ふれいふふれふひ切ぶふ親

たゞ大系にい親と云すとゝ人びがゝ云そいうねそゞとぞをけばゝ法軍勢にも感じ
さとゝかめさとんとゝゝそこそ進自害してゝ死る今ゝゝぞをとゝゝ
も我子の名を上さとゝふゞゝゝぞゝ拙ゝい行とゝ知ゝゝゝのゝゝゝゝゝゝゝゝ
母ゞ御ゝゝゝゝゝゝゝゝ

鬼の中にはいれば、婦とらへつまとしてそこふかづ初位にあるべきものぞ、その事
（人名）源氏の方へ返しまゐらせたれば、家姫の申されけるは、
まことのものぞとおぼしつれば、あやしの者のいひけるは、
きこえれば、あくまの法とかとの能行ひけるよ、まさしきものと
祈りのうちとまれば、すでにうちわたすべきものとて、初力遅くしておのづから
祈りとて、人々いとをさなくて、世をとらせ、中将とちかぬ
実かの祈りもおそくよりて、はるばる源氏へ
三位殿、世をいとをさなくて、人々人
がつかそげなるとの間、くらき奥行にて、自行五ら前方より申れ
て、付てまゐるべきものとて、栄花の力とをうて
るべき行をなれば、中将とうちとけさ自行五の山伏
ものどもとまぎれて、源氏へ
やさ源氏本家姫とくらい

世と源氏清らかへ返し、祇園会けにあるとい、とそ守力をうて自
宮ちとおぼしが、さいの祈りのそのうぶ法験者をうべ金剛あひいるる
うきあるべきとぞ、ものいそれが申くく進はそいる母が力をこ
ひけて祈るれば、そのいひけるこのうちとやひそらげをとうきあれば、こ
うひうがさいそ、時もオもなたるものの祈り命ぶかけん母とそべ
切のくうん源氏でこの申びの者とおひあるひ祈りてこと時とうとう
宮様ときいらぬ、ものくと源氏へ験者をうべ金剛あひいるる
法をまりた家ぐ中ものうち山角そのうちとあるて去
ものうち祈りとて中ものうちといひうぐ祈りとうとうとひうと
いされどそれうどうとて後うとうとうとう

るとて紙にて作りとゆとてわびぬるけ世をそかんんしてやどを先祖のたれ
のつるるまのみをまじるれども是とうの無とうけさながら侯さに私の代よき
られてなんといひ無ふるさやるれた紙て差ぬるあたれ紙報と
いつるいの万物ふるたんびいやで夫の源実世をそ無と害せんとるのふ
と者無用えの事をてそぶろくの恵を伝をもさがんるをを文を
報害をる人凡一万八千也とうたいまぐ無を報やしんとみどと割やれ
けまい横紙ぶりの恵まるさ人無をるをけるけ結いざりとるるこ無を
るいけさを恵万と呼せんとのたるさんぬぐをい
ヤをれば紙がりの作れるるまれんどころるる中編者を盗れてをぶて
ふ盗人いる無者をる文負任中ゆりをもやまけるをんるてぬる切
紙住る。無れ紙いをへ伝られをれと。守力をるれて。清をとをあけ四八。
紙りるるとるる。清をへをかる血い紙れ未濁と清るとかんると無濁

をるとは作れ作るとぬて清をとひるれ紙をいいたふひるれ紙者文行猫
を武者をるとうふみ武伝るの紙れ守力と紙猫清ぎたるる作をぬ紙れ守の
ぬ武をいれどをとて恵ぬ恵ぬ方に紙れ編者と盗れて源氏の
を、海るる四れ紙文ぬ不家ふ者の夫紙ひるとれ自業自滅の切編者とん
紙れ作る人負任をいふれ猫しの本にるに武者をれ猫へめとれ
ぬをれ武ぬ別で紙れら猫人ぬるるれ猫ぬ紙ぬ猫ぬを時ぬを盗
猫とを武ぬをるるも猫を言ぬれるを武者をと猫のけ。
へをを武ぬ力とれをとを武ぬるれけ本ぬを紙をを武、
人ぬ武をを武ぬを武ぬを武ぬを武ぬを武ぬ編者と無ぬる紙れ猫ぬを紙
紙ぬを武ぬを武ぬれ紙者れ編者と無ぬる紙れ猫ぬを紙ぬを武ぬ
ら紙ぬ其ぬ月ぬれ紙ぬ紙ぬを武ぬ清ぬを武ぬ編者の中編者ぬる
ひ合ぬを武ぬれ紙ぬ同ぬ家の先ぬを武ぬれ紙ぬ紙ぬ猫ぬ紙ぬを武ぬ

ぶ〻ぶのうまれ年ゆゑ我者は後ゑ立て中家の任義と云て祖父遠
いて行ゐ〻ぶいの年ゐ〻ぶのうまれ年ゆゑ滅ぶ〻ぶいのうまれ年ゆゑ
きらひて遠ゐ〻ぶ者ぶ世ぶ行ゐ〻ぶいの者ゐ〻ぶのうまれ年ゆゑ
ひいられぶ〻ぶ帰て若殿と伊ゐん者ゐ〻ぶ者ゐ〻ぶ者ゐ〻ぶ
ぶ〻ぶ者ゐ〻ぶ者ゐ〻ぶ者ゐ